


「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」  
第2回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	特定非営利活動法人ここ		
事 業 名 称	不登校の子どもたちの学校外の学びの場「フリースクールここ」で就労体験ができる子どもカフェ×地域の居場所	助成額	50万円
申請事業の概要	不登校の子どもたちの学校外の学びの場「フリースクールここ」でカフェを運営しながら、地域のカフェ経営者やキャリア教育の講師を招き不登校を経験した子どもたちの自尊心を高め地域のコミュニティづくりに貢献する		
申請事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のカフェ経営者やキャリア教育団体と連携をし、カフェの運営や就労について学ぶことで仕事へのイメージを形成する。それにより、不登校を経験した子どもの多くが将来抱える就労に関する困難の未然防止を図る</li> <li>・カフェが不登校経験者やその家族・地域住民や他機関、学校関係者・地元企業の交流の場になることで、必要な人に必要な情報を届けるためのハブとして活用し、将来的な雇用の創出やセーフティネットの構築に繋げる</li> <li>・カフェ事業を通してフリースクールや不登校の子どもたちへの認知を広げ、不登校の子どもや親に対する偏見や差別をなくすことに貢献する</li> </ul>		
関連するSDGs目標	目標4「質の高い教育をみんなに（すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する）」 		

2. 助成事業の実績・成果等について

<p>中高生カフェ「のしあ」と、小中学生カフェ「かろーぐ」をオープンすることができました。それぞれ「のしあ」「かろーぐ」ともに4回の開催となりました。</p> <p>子どもたちがお客さんのターゲットを決めメニューを作り、試作し、チラシを作り、SNS（Twitter、Instagram）や公式LINEで宣伝し、チラシを各校舎に貼り、イベントでチラシを配るなどしてお客さんを呼びました。</p> <p>回数を重ねるごとに、季節のメニューを取り入れたり、動画で宣伝をしたり、役割を細分化するなど子どもたち自身が工夫を凝らし成長を感じることができました。</p> <p>実際に地域のカフェの経営者に話しを聞きに伺い、カフェ運営やオペレーション、コーヒー豆や焙煎について学びました。</p> <p>また、フリースクールの保護者に協力いただき、仕事の内容の紹介やグループワーク・実験をしていただき、子どもたちに就労のイメージを持てるように企画をしました。</p> <p>お客さんとして、生徒の在籍校の先生方や地域の企業の方、ケースワーカーやスクールソーシャルワーカー、保護者やそのお友達、今現在不登校の子どもなど、幅広い層の方々にお越しいただきました。</p> <p>カフェにお越しいただいた方からイベントの招待をいただいたり（地域のお祭りの実行委員）、パンを毎週寄付して下さることになったり（神戸屋）、教育委員会との連携についての協議をしたり（市議会議員）、カフェを通して様々な繋がりを生むことができました。</p>
--

### 3. 課題分析や今後の発展性

- ・カフェの運営を希望する生徒がたくさん出てきたため、一人ひとりの仕事の分配が上手くいかず、生徒によっては以前ほどのやりがいを感じる事ができなくなった子どもも出てきた。
- ・お客さんは知り合いがほとんどになる回が多く、宣伝の仕方の工夫が必要
- ・運営側の子どもの熱量の差による子ども間のトラブル
  
- ・少しずつ回数を増やしカフェ事業を独立させ、事業拡大をしたい
- ・売上げが安定すればギフト券などで店員の子どもの給料を渡し、よりリアルな就労体験に結び付けたい
- ・企業や他団体とコラボし商品開発やイベント企画をしたい

### 4. 代表者又は担当者からのひとこと

今回の助成により、なかなか出口の見えなかったカフェ事業が発展し少しずつ形になりました。  
認知が広がると同時に子どもも増えカフェの役割も明確になり、学校に行かなかった時期のある子どもたちだからこそ、「自分以外の誰かの役に立つ」という経験はとても大きいものになったと感じます。ありがとうございました。